

無痛分娩マニュアル 2025

はじめに:

- ・硬膜外麻酔分娩とは、硬膜外腔に局所麻酔薬を注入することにより脊髄神経を可逆的に遮断する局所麻酔法を使用した分娩を指す。
- ・総合周産期センターとして産科、麻酔科、救急科との連携により安全な硬膜外麻酔分娩の管理を行う。
- ・硬膜外麻酔分娩施行に際して、硬膜外麻酔における麻酔域の確認方法、合併症(dural puncture、母体血圧および胎児心拍低下、局所麻酔中毒)への対応を理解しておく。
- ・運動神経遮断を最小限にするため、低濃度局所麻酔薬での管理を基本とする。静注薬と異なり効果発現までにやや時間がかかることを考慮して追加投与のタイミングが遅れないように留意する。
- ・産痛は一定ではなく、また、局所麻酔薬の必要量は個人差も大きい。持続投与のみで十分な疼痛コントロールができる場合は少なく、適宜ボース投与を行う必要がある。(1つの目安としては痛みスケールで少なくとも3以下の状態を維持することを目標とする。)

〔硬膜外麻酔分娩の対象〕

医学的適応、low risk 妊婦、子宮筋腫合併などは医師が可能と判断した症例

☆早産、多胎、血液凝固異常、子宮手術既往、麻酔アレルギー、硬膜外カテーテル留置不可事例(カテーテル挿入体位がとれない、脊柱脊髄に異常がある等)は除外。

〔分娩時の鎮痛方法について〕

初産婦:陣痛発来後に導入

経産婦:計画分娩

夜間および休日は分娩室の状況や麻酔科の手術対応の状況などから対応困難な場合があることをあらかじめ希望者に説明しておく